

## 第3回東北観光アドバイザー会議 議事概要

日時：平成28年3月2日(水)15:00~17:00

場所：東京都内

- ・交通関係の民間事業者から、インバウンドの取組を中心に、現状や今後の取組に関してプレゼンテーションし、意見交換。
- ・プレゼンテーションや各委員からの主な意見等は以下のとおり。

### ①民間事業者からの発表

- ・東北には外国人旅行者を惹きつけるスターが必要。そこから東北全体への良い波及効果が期待できる。(仙台国際空港)
- ・仙台空港の運用時間拡大や、仙台空港からのアクセスの充実とわかりやすさが重要。(Peach Aviation)
- ・飛行機とバスを組み合わせたアクセスの改善に取り組みたい。九州が先行事例として成果を挙げている。(みちのりホールディングス)
- ・震災学習ツアーを展開し、風化を防ぐとともに、交流人口の回復につなげたい。(同上)
- ・クルーズはリピーターが多く、常に新しい航路が必要。東北でも新たな寄港地を積極的に探しており、調整を進めている。(カーニバル・ジャパン)

### ②主な意見

#### (1) 東北観光のターゲット

- ・旅行需要の大半は国内。インバウンドよりも国内の観光振興をまずは重視すべき。
- ・外国人旅行者は感度よく動き、成長が期待できる。インバウンド受入を進めることで日本人からも注目が集まる。外国人か日本人かの二項対立ではない。
- ・インバウンドには地域が変わるための先導役を期待。
- ・観光で結果を出すまでには時間がかかる。爆買いなど早急に目先の数字を追いかけるのではなく、東北の良さが生きるターゲットにアプローチすべき。
- ・特定の市場に集中するのはリスクが高い。インバウンドには市場の多様性が必要。

#### (2) ブランドの確立

- ・宮城より仙台、兵庫より神戸が有名。東北の中で旅行者に響く地名が出てくるとよい。
- ・地元との交流や自然の豊かさなど、東北の良さはどこかを見直し、体験やスタディーツアーに力を入れる。
- ・東北のインバウンドは元々多くない。元に戻すのではなく新しく作る意識が必要。

#### (3) 交通アクセス

- ・飛行機・列車と二次交通の接続への不満が旅行者にはある。交通アクセスの情報をしっかりと提供すべき。
- ・列車とバスを組み合わせたフリーパスなどを実現することで、二次交通の改善につなげられる。

#### (4) 風評被害対策

- ・自身の体験を元にした情報は説得力がある。ブロガーや記者をはじめ、まずは東北に来てもらうことが必要。
- ・福島は原発事故の代名詞として取り上げられており、福島への誘客は難しい状況にある。福島には別の対応が必要。
- ・風評被害が根強い国(韓国・香港・シンガポール)には、粘り強く正確な情報を伝えること。他の市場に対してはブランドをどう出していくかが重要。